

## 令和 2 年度決算見込みについて

## 1 市立千歳市民病院中期経営計画の目標・視点

市立千歳市民病院中期経営計画（以下「中期経営計画」という。）では、『患者が「安心・安全な医療」を受けられるよう医療の質の向上を図るとともに、経常収支の黒字を維持し、経営の効率化に努める』ことを目標とし、その達成に向けた5つの視点を定め、具体的な取組を進めます。

本計画では、目標の達成に向け、12項目の主要な「経営指標」や収支状況について、年度ごとの数値目標を設定するとともに、5つの視点に基づく35項目にわたる「具体的な行動計画」を定めています。

（平成29年3月に中期経営計画の改訂版が策定され、数値目標が8項目から12項目、行動計画が34項目から35項目に増えています。）

**【目標】**

『患者が「安心・安全な医療」を受けられるよう医療の質の向上を図るとともに、経常収支の黒字を維持し、経営の効率化に努めます。』

**【視点】**

- ① 地域医療の充実に向けた基幹病院としての役割の強化
- ② 安全で安心できる医療の推進
- ③ 医療・看護の質の向上とチーム医療の推進
- ④ 効率的な病院運営の推進
- ⑤ 医療従事者の勤務環境等の充実

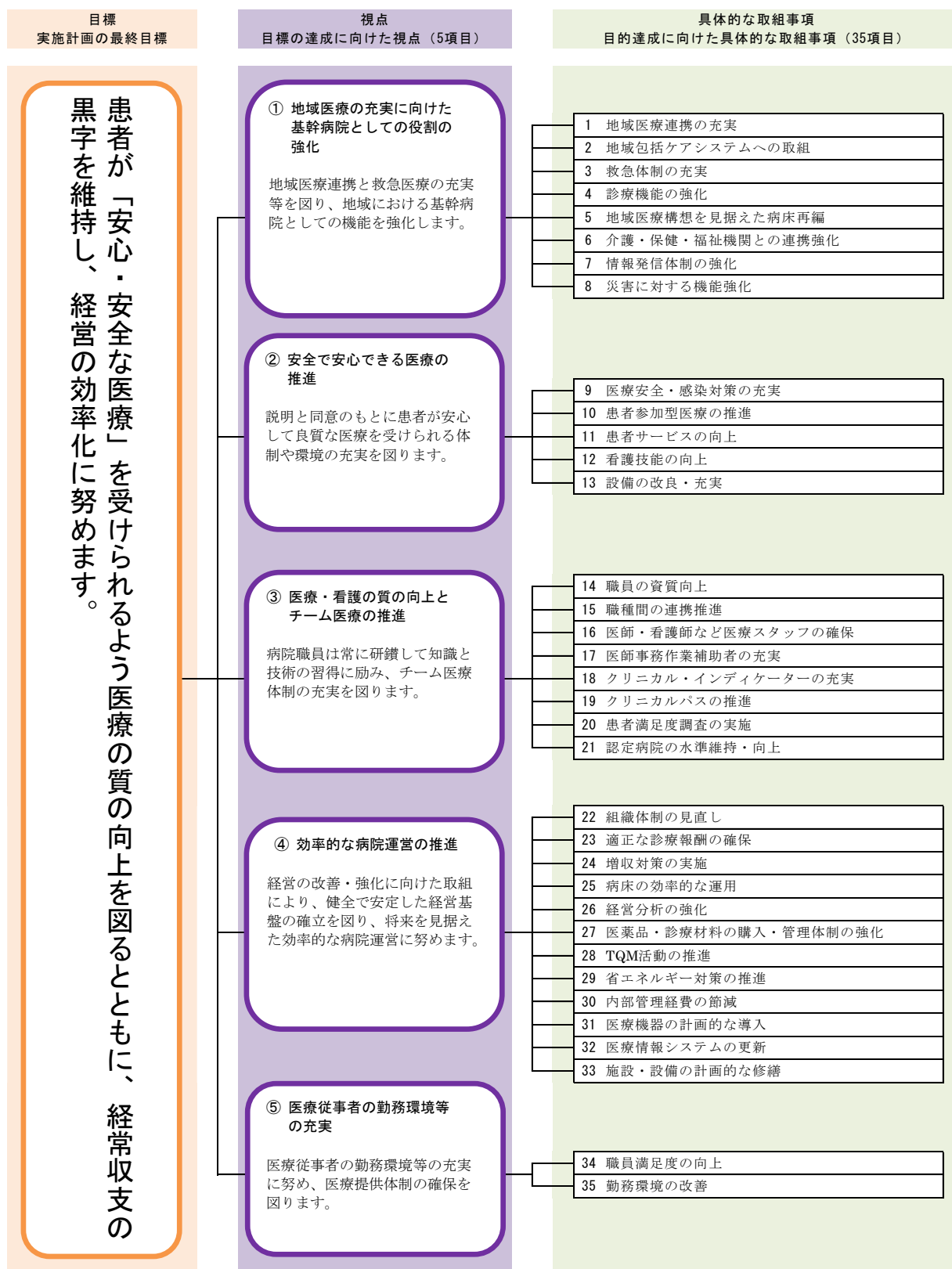
〈数値目標〉

主要な経営指標及び医療機能等指標について、次のとおり数値目標を設定します。

区 分		平成 26 年度 (実績)	平成 27 年度 (実績)	平成 28 年度 (実績)	平成 29 年度 (実績)	平成 30 年度 (実績)	令和元年度 (実績)	令和 2 年度 (計画)	※黒字公立 病院平均
経常収支比率		100.7%	99.3%	99.1%	99.8%	100.5%	98.7%	100.8%	103.2%
医業収支比率		95.4%	93.6%	92.6%	93.9%	95.2%	93.3%	96.2%	88.8%
病床利用率		75.5%	73.7%	79.2%	77.2%	77.9%	71.6%	85.5%	68.4%
1 日平均 患者数	入院	143.4 人	140.0 人	150.5 人	146.7 人	148.0 人	136.0 人	162.4 人	100 人
	外来	738.4 人	714.8 人	690.5 人	676.8 人	664.0 人	635.1 人	715.9 人	253 人
職員給与費 対医業収益比率		46.8%	47.4%	49.0%	48.0%	48.7%	51.6%	46.9%	54.1%
材料費 対医業収益比率		20.9%	21.1%	21.0%	20.3%	20.9%	20.6%	21.7%	17.5%
患者 1 人 1 日当 たり診療 収入	入院	56,249 円	57,520 円	54,821 円	58,628 円	59,803 円	61,506 円	58,653 円	30,761 円
	外来	8,963 円	9,121 円	9,249 円	9,529 円	10,141 円	10,647 円	9,712 円	9,598 円
常勤医師数		35 人	35 人	33 人	34 人	36 人	34 人	35 人	—
紹介率		21.1%	23.9%	30.3%	36.5%	44.7%	47.7%	31.3%	—
逆紹介率		13.0%	15.9%	18.9%	22.2%	26.6%	29.1%	27.4%	—

\*黒字公立病院平均は、「平成 26 年度地方公営企業年鑑」同規模病院（100 床以上 200 床未満）の数値

〈35 項目の具体的な取組事項（体系）〉



## 2 令和2年度決算見込と計画との比較

### (1) 収支状況

区分	項目	令和2年度 計画 (千円)	令和2年度 決算見込み (千円)	増減	達成率 (%)
収入	医業収益	5,888,709	4,848,547	▲1,040,162	82.3
	うち入院収益	3,476,715	2,565,024	▲911,691	73.8
	うち外来収益	1,689,535	1,513,197	▲176,338	89.6
	医業外収益	636,027	1,192,518	556,491	187.5
	経常収益	6,524,736	6,041,065	▲483,671	92.6
支出	医業費用	6,123,555	5,926,449	▲197,106	103.3
	うち職員給与費	2,762,344	2,930,801	168,457	94.3
	うち材料費	1,279,511	1,081,059	▲198,452	118.4
	うち経費	1,694,004	1,522,304	▲171,700	111.3
	医業外費用	347,779	319,019	▲28,760	109.0
経常費用	6,471,334	6,245,468	▲225,866	103.6	
経常損益		53,402	▲204,403	▲257,805	▲382.8

令和2年度経常損益決算見込額は、2億440万3千円の経常赤字となっています。

収入・支出別に主な項目を見ますと、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策として、入院制限や予定手術の延期、外来診療の一部休止を実施したことに加え、患者の受診控えや季節性感染症等の減少により、入院・外来ともに患者数が大幅に減少し、医業収益が大きく減少する見込みとなっています。

医業収益のうち入院収益においては、計画では34億7,671万5千円を予定していましたが、決算見込では25億6,502万4千円となり、計画を9億1,169万1千円下回り、達成率は73.8%の見込みとなっています。

外来収益においては、計画では16億8,953万5千円を予定していましたが、決算見込では15億1,319万7千円となり、計画を1億7,633万8千円下回り、達成率は89.6%の見込みとなっています。

一方、医業外収益においては、計画では6億3,602万7千円を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症患者等受入病床の確保や、発熱外来の実施に係る医療提供体制の確保などに対し交付される「新型コロナウイルス感染症患者等入院受入医療機関緊急支援事業補助金」や「新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金」等が交付決定されたことにより、決算見込では11億9,251万8千円となり、計画を5億5,649万1千円上回り、達成率は187.5%の見込みとなっています。

この結果、経常収益については、決算見込では60億4,106万5千円となり、計画の65億2,473万6千円を4億8,367万1千円下回り、達成率は92.6%の見込みとなっています。

支出においては、医業費用のうち職員給与費が計画では27億6,234万4千円を予定していましたが、決算見込では29億3,080万1千円となり、計画を1億6,845万7千円上回り、達成率は94.3%、材料費においては、計画では12億7,951万1千円を予定していましたが、入院・外来患者数の減少に伴う薬品使用量の減少などにより、決算見込では10億8,105万9千円となり、計画を1億9,845万2千円下回り、達成率は118.4%、経費においては、計画では16億9,400万4千円を予定していましたが、入院・外来患者数の減少に伴う手数料や委託料の減少などにより、決算見込では15億2,230万4千円となり、計画を1億7,170万円下回り、達成率は111.3%の見込みとなっています。

また、医業外費用においても、計画では3億4,777万9千円を予定していましたが、決算見込では3億1,901万9千円となり、計画を2,876万円下回り、達成率は109.0%の見込みとなっています。

この結果、経常費用については、決算見込では62億4,546万8千円となり、計画の64億7,133万4千円より2億2,586万6千円下回り、達成率は103.6%の見込みとなっています。

経常損益については、計画では5,340万2千円の利益（黒字）を予定していましたが、決算見込では2億440万3千円の損失（赤字）を計上し、計画と比べ2億5,780万5千円の減益となり、達成率は▲382.8%の見込みとなっています。

## （２）数値目標

項目	令和2年度 計画	令和2年度 決算見込み	達成率 (%)
経常収支比率 (%)	100.8	96.7	95.9
医業収支比率 (%)	96.2	81.8	85.0
病床利用率 (%)	85.5	56.9	66.5
1日平均患者数(入院)(人)	162.4	108.1	66.6
1日平均患者数(外来)(人)	715.9	537.2	75.0
職員給与費対医業収益比率 (%)	46.9	60.4	77.6
材料費対医業収益比率 (%)	21.7	22.3	97.3
患者1人1日当たり診療収入(入院)(円)	58,653	65,031	110.9
患者1人1日当たり診療収入(外来)(円)	9,712	11,589	119.3
常勤医師数(人)	35	34	97.1
紹介率 (%)	31.3	56.5	180.5
逆紹介率 (%)	27.4	35.4	129.2

経営の効率化・安定化に向け計画年度ごとに設定されている12項目の数値目標の評価については、「患者1人1日当たり診療収入(入院)」、「患者1人1日当たり診療収入(外来)」、「紹介率」及び「逆紹介率」の4項目が目標を達成する見込みです。

一方、「経常収支比率」、「医業収支比率」、「病床利用率」、「1日平均患者数（入院）」、「1日平均患者数（外来）」、「職員給与費対医業収益比率」、「材料費対医業収益比率」、「常勤医師数」の8項目が目標の達成に至らない見込みとなっています。

目標を達成する見込みの4項目のうち、「患者1人1日当たり診療収入（入院）」及び「患者1人1日当たり診療収入（外来）」の増加については、効率的な医療の提供、さらには地域医療機関との患者の紹介・逆紹介に伴う高度な検査や治療などにより、計画と比べ患者1人1日当たりの診療収入が増加したことによるものです。

「紹介率」及び「逆紹介率」の増加については、新型コロナウイルス感染症の影響や「かかりつけ医」の普及等により初診患者数が抑制されたこと、「地域連携ネットワークシステム」の運用に伴い、地域の医療機関との連携体制が一層強化されたことにより、紹介患者数及び逆紹介患者数が増加したことによるものです。

また、目標達成に至らない見込みの8項目のうち、「経常収支比率」の減少については、計画と比べ、材料費や経費の減少などにより経常費用が2億2,586万6千円減少したものの、入院・外来患者数の減少などにより経常収益が4億8,367万1千円減少しており、経常費用よりも経常収益の方が多く減少したことによるものです。

「医業収支比率」の減少についても、計画と比べ、材料費や経費の減少などにより医業費用が1億9,710万6千円減少したものの、入院・外来患者数の減少などにより医業収益が10億4,016万2千円減少しており、医業費用よりも医業収益の方が多く減少したことによるものです。

「病床利用率」、「1日平均患者数（入院）」、「1日平均患者数（外来）」の減少については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、患者数が減少したことによるものです。

「職員給与費対医業収益比率」の増加については、計画と比べ、職員給与費が1億6,845万7千円増加し、医業収益が10億4,016万2千円減少しており、医業収益に対する職員給与費の割合が増加したことによるものです。

「材料費対医業収益比率」の増加については、薬品使用量の減少やコスト縮減の取組などにより、計画に比べ、材料費が1億9,845万2千円減少したものの、医業収益がそれを上回る減少となったことによるものです。

「常勤医師数」については、年度途中の退職により34名となり、計画の35名に至らなかったことによるものです。